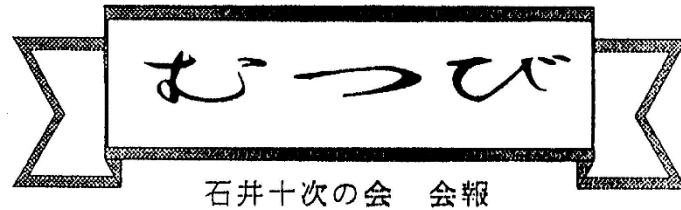


2023年
(令和5年)
4月13日



307号

石井十次の会 会報

友愛社で育ち、大学に進学した子どもたち

石井記念友愛社評議員
(元九州保健福祉大学教授)
山崎 きよ子

児嶋草次郎理事長(先生)が、順正学園の加計美也子理事長との間に交わされた協定により、九州保健福祉大学に(後ほどは吉備国際大学や岡山理科大学等にも)特別奨学金制度が整い、友愛社の高校卒業生は当大学に進学することが出来るようになりました。第1期生が大学に入学してからこの3月で8年が経過します。

この間、大学(専門学校)進学者は第1回の2名から増加を続けております。私は、当時友愛社評議員でありまた大学教員でもありましたので、大学側のコーディネイト役を些少なりともさせていただきましたことから、この8年を振り返ってみたいと思います。

最初の2名は、今後続く学生のためにという大きな使命感を持って大学の門をくぐったことでしょう。そして、卒業時には見事、社会福祉士の資格を取得し、二人とも、児童福祉分野に就職し、自身の人生経験を生かした素晴らしい仕事をしています。

九州保健福祉大学には、「愛の十次賞」という表彰があり、卒業式の日に授与されます。具体的には、成績優秀はもちろんのこと、他の模範となるような生活やボランティア活動など社会貢献をした大学生1名のみが表彰される大変名誉な賞です。表彰者は児嶋先生で、1期生の彼からこの8年ほぼ友愛社出身の学生がこの賞を頂いています。大学進学

者は学問と社会貢献活動を熱心に両立させています。高齢者施設を含む社会福祉分野に就職する学生も多いのが特徴です。

いいことばかりではありませんでした。ある女学生は非常にまれな難病に罹り、たった19歳で短い生涯を閉じました。1年生の夏に発病し、草次郎先生をはじめとし、多くの職員の方、友人、関係者が励まし、支援し、回復を祈りましたがかないませんでした。抜けるような青空の下でのお葬式も友愛社が主催で、とてもつらく悲しい出来事でした。現在彼女は石井十次先生と同じ墓地で眠っております。

残念ながら、中退者も出ております。しかし、中退者であっても友愛社のフォローを受けながら人生を模索しています。現在、延岡市には「みなこホーム」という卒園者支援の自立援助ホームがあり卒園者の物心両面を支える文字通りホームとなっています。草次郎先生の考えでは、「失敗はしてもよい。最初から諦めず、挑戦することが大事だ」との精神で挑戦させているとのことでした。

今年も社会福祉士、介護福祉士のダブル合格者が出、たいへん成績優秀であったと聞いております。彼女は当時の自分の環境では大学に行くことなどは全く考えられなかったと言い、草次郎先生との出会いを心から感謝すると話しておりました。昨年は大学創設以来初めてという学生が出ました。彼は卒業時に社会福祉士、精神保健福祉士、保育士の3資格を取得し、先にご案内した「愛の十次賞」まで受賞して卒業して行きました。加えてアルバイト先からも絶大な信頼を得ておりました。友愛社で育ったことをプラスに変え、現在大都会の児童養護施設で働いています。

石井十次先生の教えを守り、その上に積み上げてこられた草次郎先生の実践が現在のこのような子どもたちのバックボーンになっていることは間違いありません。

はじめに

石井十次が馬場原教育会を設立し、朝晩学校を開設したのは明治17年(1884)8月のことである。向学心に燃え家計が困難な若者数人を対象に「他国遊学生捐資制度」を設け他県に遊学させることにした。「信天記」には次のようにみえる。

「県外留学生の同行 暑中休暇が終わってよいよ帰岡せんとするにあたりて、3人の遊学生を同行した。後に又2名の青年が出岡する。前者は渡邊栄太郎、石黒畛十郎、押川猪之吉の3人、後者は岩村加次郎、萱嶋諸秀の2人である」

萱嶋諸秀は後者の一人である。十次と同じように荻原百々平に啓発され、医師を目指して岡山医学校に入学する。諸秀は十次より1歳年下で親戚だった。ふたりは竹馬の友でもあった。



萱嶋 諸秀

1. 小学校を出ると晩翠学舎で学ぶ

萱嶋諸秀は、慶応2年(1866)2月、高鍋村道具小路で、父・諸善、母・キヨ(幾與)の間に生まれた。キヨは岩村真鉄の妹である。真鉄の妻・静子は石井十次の姉であるから、諸秀と十次は親戚になる。

明治13年(1880)晩翠学舎に入舎。慶応元年(1865)生まれの十次は1歳上、元治元年(1864)生まれの柿原正一は2歳上である。3人は共に晩翠学舎で机を並べた。晩翠学舎は藩校明倫堂が明治6年に閉校になったあと、明倫堂の校風を引き継いで田村義勝が創立した漢学塾である。3人はここで漢学を学ぶことで人格が形成されたと思われる。諸秀は2年6ヶ月の在籍ののち、晩翠学舎を退舎した。

2. 荻原百々平の奨めで岡山医学校に入学する

諸秀の甥・萱嶋秀樹の遺稿「七十年前を回顧して」(高鍋教会百年記念誌)には、「石井十次氏と縁続きで、しかも同年生まれで、幼き日より共に学び共に遊んだ間柄にあった萱嶋諸秀氏の日誌によれば、彼等長ずるに及び高鍋出身である荻原百々平氏(宮崎在住)のもとに薬局生として働いていた。その間、荻原氏の奨めによって基督教の信奉を条件として岡山の医学校に学ぶことになった」と書かれている。明治15年(1882)9月、十次は岡山医学校に入学する。翌年9月、諸秀は十次と共に岡山に行き、岡山医学校に入学する。諸秀は医学校で学びながら、天主教(カトリック)に入信する。しかし天主教では満たされないものを感じ、十次とともに岡山基督教会(新教)の金森通倫牧師をたずねる。ここではじめて心安らぐ信仰にふれ、洗礼を受けてプロテスタントとして再出発した。

3. 学資が続かず、十次の懸命の支援も実らず、医学校を退学する

諸秀は家庭の事情で学資が続かなくなった。明治19年(1886)1月15日の石井十次日誌には次の記録がある。「萱嶋諸秀君は、先日国許より、家政上困難なるが故、医学停止、師範学校へ入学するか、或いは学僕云々の義申し来たり 候 故、不肖義(十次)も百方力を尽くし周旋つかまつり候ところ、三宅・河本(兩人とも天主教伝導人)両君ならびに仏国宣教師、国許より1円50銭づつにても仕送り相付け候わば、補助いたしくるべく御談にきまり 候 故、この由、不肖(十次)よりも諸善様(諸秀父)にお掛け申し遣わし候が、如何の結果にご座候や、尚ほ尊父大人よりも右すすめ、後来一族のため、お謀り下されたく願いたてまつり候」と、十次の父・万吉に出した手紙が転載されている。

つまり、「家計が困難なため学資が送れなくなったので、医学校を退学するか、あるいは学費が無料の師範学校に入るか、などの問い合わせが諸秀の実家からあった。十次が百方手を尽くして奔走した結果、天主教伝導師や仏国宣教師の援助が得られるようになったので、家から1円50銭の仕送りがあれば医学校を続けられる、との知らせを諸秀父・諸善にしたが、その結果はどうなったのだろうか」と父・万吉に尋ねている。残念なことに、十次の必死の奔走にもかかわらず諸秀の家庭の事情は好転することなく、退学のやむなきに至った。(続)

(編集委員 石川正樹)

参考資料：信天記(西内天行著)、高鍋村史教史叢(横川澄夫)、高鍋教会百年記念誌

編集委員会 内々の記(その2)

編集委員 竹之下 悟

コロナ禍で延び延びにしていた茶話会を2月17日に期日変更して開催した。
お詫びに「どら焼き」を持参した。茶話会なので当然お楽しみタイムもある。
そのときの内々の記である。

私はクイズを2題用意した。

【クイズ1】

どら焼きが全員に行き渡ったのを確認後、おもむろに ♪♪アンアンアンとっても大好きドラえもん♪♪ と唱う。※印象付けのために2回唱った。そしてクイズ出題。

ドラえもんは「どら焼き」が大好きです。

さて、どら焼きは内側の「あんこ」と外側の「皮」でできています。

ドラえもんは「あんこ」と「皮」ではどちらが好きでしょうか。

選択肢は二つ。 1「あんこ」 or 2「皮」

♪♪アンアンアンとっても大好きドラえもん♪♪ と唱っているのだから 1「あんこ」

・では外側の「皮」は嫌いなのでしょうか。

♪♪とっても(取り除いても)大好きドラえもん♪♪ と唱っているから「皮」も好き。

・ゆえに、1「あんこ」も 2「皮」のどちらも好きが正解。

【クイズ2】

日本には四季があります。春夏秋冬。さて、春夏秋冬にはそれぞれ「色」がつきます。

例えば春を「アオハル」と称するように「青←春」。では残りの夏秋冬はそれぞれ何色でしょうか。

※正解は編集後記欄に記す。

これまた、既知のクイズではなかったみたいだが、春夏秋冬を人間の一生として考えようとのヒントで瞬く間に正解を導き出した。恐るべし!! 編集委員。よそではこうはいかぬ。

《 お し ら せ 》

★新会員のご紹介(敬称略)

【宮崎市】作田 直美 田中 実喜雄 日高 紀子 河口 和 布谷 美幸

【西都市】横山 美智子 【綾町】(合) 香月ワインズ 【門川町】 松尾 和子

★ご寄付をいただきました(敬称略)

【西都市】金丸 昭

*ここまでの掲載者は編集等の都合により3月22日までのものとしています。

★方舟館より

去る2月19日、有機農業の町、宮崎県綾町にて手作りナチュラルワインを生産されている香月ワイン代表 香月克公さんの講演会が、友愛社内の研修館で行われました。とても有意義なお話でした。詳しくは、同封の「石井十次の会 宮崎支部からのご報告」をご覧ください。

この会報は、宮崎県を中心に全国1700余の個人・団体に毎月送付しています。

㊞ 884-0102宮崎県児湯郡木城町大字椎木644-1
社会福祉法人 石井記念友愛社後援会

石井十次の会

TEL/FAX 0983-32-4612

メール yuuaisya-jyuujinokai@ki.io.jp

編集後記

★巻頭は延岡市 山崎きよ子氏に玉稿をいただきました。新年度スタートにふさわしい内容。感謝します。なお、石川正樹委員著「石井十次を支えた先人たち」は200冊増刷が決定しました。クイズ2正解

春(青)・夏(赤→朱)・秋(白)・冬(黒→玄)

編集委員 竹之下 悟